

北区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称		実施主体			
頑張らなくていい！ちょっとしんどい子育て、パパママ応援プラン		北保健センター			
事業目的	事業内容	活動指標	R3	R4	R5
地域での子育てが負担と感じる要因が多くなる中、気持ちの共有や子育てのとらえ方を学び、安定した子育てが行える基盤づくりをめざす。 【バナナの会】 「多胎妊娠・育児」への支援を目的とする。 【ころころゴーヤの会】 理想育児とのギャップにしんどさを抱える「乳児後期の保護者」への支援を目的とする。	【バナナの会】年間4回(継続参加可能) ○保護者同士、スタッフを交えた交流: 季節行事や軽作業を実施しながらの交流 ○保健専門職による子育て相談 【ころころゴーヤの会】年間4回(対象者一人1回のみ) ○子どもとの遊び方や関わり方 ○保健専門職による子育て相談	【バナナの会】参加者数	-	-	87人
		【ころころゴーヤの会】参加満足度アンケート(よかった以上と回答)	-	-	100%
①妥当性	②協働の視点	③インパクト	④効率性		
○	北区の妊娠届出数は全区の中で最多である。また、子育て世代の転出入が多い。多胎妊娠年間20組程度。悩みに寄り添う支援が必要である。孤立・虐待予防にも寄与できると考える。	○	産後うつ傾向(EPDS高値)の人数が北区は最も多く、4か月児健診質問票でも育児に自信がもてない人が4%ある。ゴーヤの会では児が5か月～8か月(会の名称の由来)の時に専門職からの助言を得られることで、孤立・虐待予防ができる。堺市では7区中1区のみ実施している。	○	対象者には妊娠届出時の面接や乳幼児健診や保健師などの訪問で事業紹介ができています。助産師・保育士の最小限の予算(人件費)で、相談・交流ができています。
⑤自立発展性	総合評価				
○	専門職のアドバイスや保護者同士の交流により、子どもの成長とともに保護者も成長することができる。	○	専門職からのアドバイスを聞きつつ、参加者同士で交流をすることで、本事業への参加が孤立を解消、子育てや生活の見直しをもつ機会となり、子育て力の向上に寄与している。		
今後の方向性(課題、改善提案等)					
拡充 継続 見直し 廃止	子育てについて勉強熱心に取り組む方が増加し、様々なツールを使って情報を収集している。情報過多の中、思い描いていた育児と実態にギャップを感じ、自信をなくしてしまったり、こうでないといけないと思ひこんでしまったり、子育てを頑張りすぎてしまう状況がみられる。会をとおして、一人ではないと感じ、仲間をつくる楽しさや専門職からのアドバイスを得て、正しい情報を選択し、孤立をしないこと、相談できることが必要と考える。令和6年度はゴーヤの会では産後のメンタルヘルスを考える機会として、精神科医師による講演会を1回開催する。				